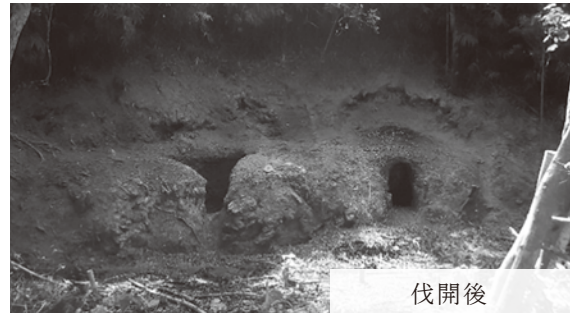


## 谷茶の炭焼窯と壕群

平成 27 年度から平成 28 年度にかけて、村内の遺跡分布調査で確認した遺跡の中に谷茶地区で確認された炭焼窯群と戦争遺跡の住民避難壕群があります。以前、沖縄科学技術大学院大学がある敷地内に炭焼窯が1基ありました。今回確認されたのはその下流に位置する場所で炭焼窯が2基連なっている状態で所在しています。炭焼は古くは平安時代まで遡るといわれていますが、恩納村に所在する炭焼窯は明治以降に行われたと言われていています。戦時中も炭は貴重な燃料として炭の生産を行っていたそうです。やんばる地域には今も炭焼窯が残っていますが、谷茶の炭焼窯は天井部分が残っている数少ない事例で、恩納村以外には久米島でしか報告例がないそうです。



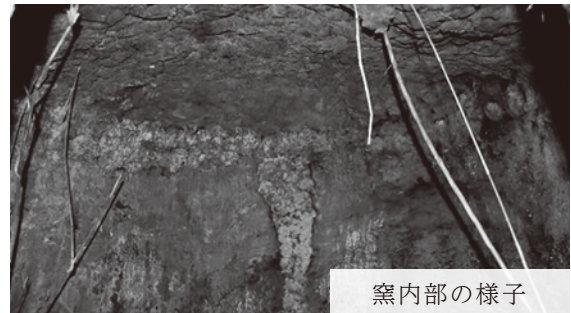
炭焼窯確認状況



伐開後



天井のある炭焼窯



窯内部の様子

壕群は炭焼窯があるところから下流に降りた場所にあります。深さ約2mの壕が9箇所あり、3箇所は掘りかけの壕になっていて、住民避難壕と言われていています。類似する壕群が渡嘉敷島に所在しており、村指定文化財になっています。村内で確認される壕の中でも残りの良い戦争遺跡であり、村内の小中学校の平和学習等で活用している貴重な戦争遺跡です。

